

教職関連科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語科教育論Ⅰ	国語科教育論Ⅰ	4	相澤 秀夫	通年	水	1	1
国語科教育論Ⅱ	国語科教育論Ⅱ	4	相澤 秀夫	3、集中(3)	水	2	2
英語科教育論Ⅰ	外国語教育や第二言語 習動機づけの基本・基礎	4	リース・エイドリアン	通年	月	4(前期) 2(後期)	3
英語科教育論Ⅱ	外国語教育の理論と実践	4	リース・エイドリアン	通年	月	3	5
ドイツ語科教育法Ⅰ	多読によるドイツ語の 習得	2	菊池 克己	5	火	4	6
フランス語科教育法Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2	MEVEL YANN ERIC	5	月	2	7
フランス語科教育法Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2	MEVEL YANN ERIC	6	月	2	8
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業 の設計と実践	2	初澤 敏生	6	木	1	9
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業 の設計と実践	2	菊地 茂樹	5	木	1	10
宗教科教育法Ⅰ	岡正雄の日本宗教論 (1)	2	山田 仁史	5	金	1	11
宗教科教育法Ⅱ	岡正雄の日本宗教論 (2)	2	山田 仁史	6	金	1	12

科目名：国語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of the Japanese Language I

曜日・講時：通年 水曜日 1 講時

セメスター：通年， **単位数：**4

担当教員：相澤 秀夫（非常勤講師）

講義コード：LB93101， **科目ナンバリング：**LHM-EDU901J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

国語科教育論Ⅰ

2. Course Title（授業題目）：

Teaching Theory of the Japanese Language I

3. 授業の目的と概要：

国語科教育を支える理論や学習指導要領の目標・内容を理解するとともに、国語の授業づくりに必要な基本的技能を身につける。

国語科教育の意義や目的を踏まえつつ、国語科の課題や学習指導要領の目標や内容を理解する。その上で指導方法を身につける。

4. 学習の到達目標：

国語科教育の意義や目的・内容を理解するとともに、基本的かつ具体的な指導方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：国語科教育の意義や目的について

第2回：国語科教育の今日的な課題について①（学力調査等に見られる課題・問題）

第3回：国語科教育の今日的な課題について②（高度情報化等への対応）

第4回：学習指導要領改訂の背景と国語科の改定の趣旨及び要点について

第5回：中学校学習指導要領の目標と内容について①（教科・各学年の目標と内容の構造）

第6回：中学校学習指導要領の目標と内容について②（A 話すこと・聞くこと、B 書くこと／知識・技能）

第7回：中学校学習指導要領の目標と内容について③（C 読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項／思考力、判断力、表現力等）

第8回：高等学校学習指導要領の目標と内容について①（国語総合・国語表現／現代の国語・言語文化）

第9回：高等学校学習指導要領の目標と内容について②（現代文A・現代B／論理国語・文学国語）

第10回：高等学校学習指導要領の目標と内容について③（古典A・古典B／国語表現・古典探求）

第11回：国語科教育の変遷と主な思潮、指導法、人物等について①（戦前の国語科教育）

第12回：国語科教育の変遷と主な思潮、指導法、人物等について②（戦後の国語科教育）

第13回：言葉の特徴や使い方の指導法について①（主に言葉の特徴や使い方に関して）

第14回：言葉の特徴や使い方の指導法について②（主に我が国の言語文化に関して）

第15回：話すこと・聞くことの指導法について①（話すこと・聞くことの指導の基礎・基本について）

第16回：話すこと・聞くことの指導法について②（話し合いの指導について）

第17回：書くことの指導法について①（書くことの指導の基礎・基本について）

第18回：書くことの指導法について②（実用的な文章の指導を中心に）

第19回：書くことの指導法について③（創作文の指導を中心に）

第20回：読むことの指導法について①（論説・評論文の指導を中心に）

第21回：読むことの指導法について②（小説の指導を中心に）

第22回：読むことの指導法について③（古典の指導を中心に）

第23回：読むことの指導法について④（詩歌の指導を中心に）

第24回：情報機器の活用について①（情報機器の活用についての基礎・基本を中心に）

第25回：情報機器の活用について②（話や文章に含まれている情報の扱い方について）

第26回：授業設計と学習指導案の作成

第27回：模擬授業の実施①

第28回：模擬授業の実施②

第29回：国語の授業づくりの課題と学習評価について

第30回：国語の実践の方向と学習評価について

6. 成績評価方法：

平常点（60％）、模擬授業（20％）、レポート（20％）

7. 教科書および参考書：

テキスト

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

8. 授業時間外学習：

テキストを活用して、国語科教育の内容や指導方法について事前に調べまとめる。

9. その他：なし h_aizawa0404@yahoo.co.jp

科目名：国語科教育論Ⅱ／ Teaching Theory of the Japanese Language II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時, 前期集中 その他 連講

セメスター：3、集中(3), **単位数：**4

担当教員：相澤 秀夫 (非常勤講師)

講義コード：LB93201, **科目ナンバリング：**LHM-EDU902J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

国語科教育論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of the Japanese Language II

3. 授業の目的と概要：

中学校や高等学校の国語科における授業づくりの実践的な技能を身につける。

国語の授業づくりの特質を踏まえて、教材研究や発問づくり、指導案の作成、模擬授業等を実績的に行う。

4. 学習の到達目標：

国語科における指導案の作成や学習指導・評価等の知識や技能を身につけ、教壇実習ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：国語の授業づくりの特質について①（主に知識・理解に関する指導を中心に）

第2回：国語の授業づくりの特質について②（主に思考力・判断力・表現力等に関する指導を中心に）

第3回：教材の特性と授業設計について①（言葉の特性等に関する教材を中心に）

第4回：教材の特性と授業設計について②（話すこと・聞くこと・書くことに関する教材を中心に）

第5回：教材の特性と授業設計について③（読むことに関する教材を中心に）

第6回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて①（言語の特性に関する教材を中心に）

第7回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて②（話すこと・聞くことに関する教材を中心に）

第8回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて③（書くことに関する教材を中心に）

第9回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて④（概説・評論文に関する教材を中心に）

第10回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて⑤（小説・詩歌に関する教材を中心に）

第11回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて①（情報機器の活用／情報化等への対応を中心に）

第12回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて②（読書指導を中心に）

第13回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて③（情報機器の活用／NIE への対応を中心に）

第14回：学習形態の機能と授業設計について

第15回：学習指導案の構成について

第16回：授業設計と学習指導案の作成について①（論説・評論文教材を中心に）

第17回：授業設計と学習指導案の作成について②（小説教材を中心に）

第18回：模擬授業の実施①（A グループ）

第19回：模擬授業の実施②（B グループ）

第20回：模擬授業の実施③（C グループ）

第21回：模擬授業の実施④（D グループ）

第22回：模擬授業の実施⑤（E グループ）

第23回：模擬授業の振り返りと授業改善について①（自己評価を中心に）

第24回：模擬授業の振り返りと授業改善について②（相互評価を中心に）

第25回：学習評価の実際と課題について①（教育評価の基礎・基本）

第26回：学習評価の実際と課題について②（評価と評定について）

第27回：学習評価の実際と課題について③（評価の実際と配慮すべきこと）

第28回：国語科の実践研究の動向と課題について①（主に中学校を中心に）

第29回：国語科の実践研究の動向と課題について②（主に高等学校を中心に）

第30回：国語科の実践研究の動向と課題について③（主に教育研究を中心に）

6. 成績評価方法：

平常点（50％）、模擬授業（30％）、レポート（20％）

7. 教科書および参考書：

テキスト

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

8. 授業時間外学習：

説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくりなどを各自事前に行う。

9. その他：なし h_aizawa0404@yahoo.co.jp

科目名：英語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of English I

曜日・講時：前期 月曜日 4講時, 後期 月曜日 2講時

セメスター：通年, **単位数：**4

担当教員：リース・エイドリアン（非常勤講師）

講義コード：LB91401, **科目ナンバリング：**LHM-EDU903J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

外国語教育や第二学習動機づけの基本・基礎

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of English I

3. 授業の目的と概要：

- ・外国語教育や第二学習動機づけの基本・基礎について理解を深める。
- ・外国語学習動機づけの基本について理解を深める。
- ・英語科授業の模擬授業を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
- ・外国語学習動機づけに関する話題や課題についてディスカッションができる。
- ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

外国語教育理論や外国語学習動機づけ理論について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。

前期

Week 1 外国語教育の基本、模擬授業のやり方や評価
Week 2 Background to teaching English as a Foreign Language
Week 3 A general approach to teaching English
Week 4 Presenting new language items
Week 5 Organizing language practice
Week 6 Handling vocabulary
Week 7 Developing spoken communication skills
Week 8 Developing written communication skills
Week 9 Review and remedial work
Week 10 Planning and managing classes
Week 11 Working with a course book
Week 12 Teaching aids and materials
Week 13 Testing and evaluation
Week 14 Development in teaching English
Week 15 Review

後期

Week 1 Course Review. Background to motivation
Week 2 The growth and fixed mindsets
Week 3 What can we learn from the growth mindset in sports?
Week 4 Parents, teachers, and coaches: Where do mindsets come from?
Week 5 Mindsets in second language acquisition
Week 6 Choosing words, choosing worlds
Week 7 Learning Worlds: People, performing, and learning
Week 8 Changing learning narratives
Week 9 “Good Job!” Feedback, praise, and other responses
Week 10 Any other ways to think about that? Inquiry, dialogue, uncertainty, and difference
Week 11 Social imagination
Week 12 Moral agency: Moral development and civic engagement
Week 13 Thinking together, working together
Week 14 Choice worlds
Week 15 Review

6. 成績評価方法：

①小テスト (30%)、②ディスカッション参加 (20%)、③模擬授業 (30%)、④プレゼンテーション (20%)

7. 教科書および参考書：

前期

教科書

Davies, P. (2000). Success in English Teaching. ISBN-13: 978-0194421713

後期

教科書

Johnston, P. (2012). Opening Minds: Using Language to Change Lives. ISBN-13: 978-1571108166

参考書

Dweck, C. (2017). Mindset - Updated Edition: Changing The Way You think To Fulfil Your Potential. ISBN-13: 978-1472139955

8. 授業時間外学習:

教科書を読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと。

9. その他: なし英語科教育論 I は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：英語科教育論Ⅱ／ Teaching Theory of English II

曜日・講時：通年 月曜日 3講時

セメスター：通年, **単位数：**4

担当教員：リース・エイドリアン（非常勤講師）

講義コード：LB91301, **科目ナンバリング：**LHM-EDU904J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

外国語教育の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of English II

3. 授業の目的と概要：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。
- ・英語科授業の模擬授業を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・英語科教育の目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
- ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

外国語教育理論について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。

Week 1 コースの説明や学習指導要領

Week 2 外国語教育の基本、模擬授業のやり方や評価

Week 3 Chapter 1 - Getting Started

Week 4 Chapter 2 - A Century of Language Teaching

Week 5 Chapter 3 - Contextualizing Communicative Approaches

Week 6 Chapter 4 - Teaching by Principles

Week 7 Chapter 5 - Agency in Language Learning

Week 8 復習 - Chapters 1-5

Week 9 Chapter 6 - Teaching Across Age Levels

Week 10 Chapter 7 - Teaching Across Proficiency Levels

Week 11 Chapter 8 - Cultural and Sociopolitical Contexts

Week 12 復習 - Chapters 6-8

Week 13 Chapter 9 - Curriculum and Course Design

Week 14 Chapter 10 - Lesson Planning

Week 15 Chapter 11 - Techniques, Textbooks, and Materials

Week 16 Chapter 12 - Technology in Language Learning and Teaching

Week 17 Chapter 13 - Creating an Interactive Classroom

Week 18 Chapter 14 - Classroom Management

Week 19 復習 - Chapters 9-14

Week 20 Chapter 15 - Teaching Listening

Week 21 Chapter 16 - Teaching Speaking

Week 22 Chapter 17 - Teaching Reading

Week 23 Chapter 18 - Teaching Writing

Week 24 Chapter 19 - Teaching Grammar and Vocabulary

Week 25 復習 - Chapters 15-19

Week 26 Chapter 20 - Language Assessment: Principles and Issues

Week 27 Chapter 21 - Classroom-Based Assessment

Week 28 Chapter 22 - Teacher Development

Week 29 Chapter 23 - Teachers for Social Responsibility

Week 30 復習 - Chapters 20-23

6. 成績評価方法：

- ①小テスト (40%)、②ディスカッション参加 (20%)、③模擬授業 (40%)

7. 教科書および参考書：

Brown, H. D., & Lee, H. (2015). Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy (4th ed.). White Plains, NY: Longman.

8. 授業時間外学習：

各チャプターに関するビデオを見ながら教科書を読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと

9. その他：なし英語科教育論 II は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：ドイツ語科教育法 I / Teaching Method of German Studies I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：菊池 克己（非常勤講師）

講義コード：LB52407, 科目ナンバリング：LHM-EDU905J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多読によるドイツ語の習得

2. Course Title (授業題目)：

German acquisition based on extensive reading (Tadoku)

3. 授業の目的と概要：

この授業では外国語習得のアプローチとして多読を取り上げ、多読を知識として紹介するだけでなく、実際に体験してもらう。それによって、懸命に勉強しても外国語が身についたという実感が持てない従来の学習法を相対化し、その問題点を考えると同時に、新しい外国語習得の可能性を探る。

4. 学習の到達目標：

- ・多読というアプローチを知る。
- ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
- ・ドイツ語での読書を習慣化する。
- ・従来の学習法を見直し、その問題点を考察する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は多読の実践が中心。多読は自分が楽しんで読める本を大量に訳さずに読む。絵本などのやさしい本から始めて、自分にあった本を自分で選んで読み、その経験を簡単に記録する。

- 1 オリエンテーション：多読とは何か？
- 2 多読実践 1：多読の読み方を知る
- 3 多読実践 2：自分にあった本の選び方
- 4 多読実践 3：読書を楽しむために
- 5 多読実践 4：多読に親しむ
- 6 多読実践 5：多読に親しむ
- 7 多読実践 6：多読に親しむ
- 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
- 9 多読実践 7
- 10 多読実践 8
- 11 多読実践 9
- 12 多読実践 10
- 13 多読実践 11
- 14 多読実践 12
- 15 多読経験を振り返って

6. 成績評価方法：

平常点 [100%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示

8. 授業時間外学習：

隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

9. その他：なし

科目名：フランス語科教育法Ⅰ／ Teaching Method of French StudiesⅠ

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC (准教授)

講義コード：LB51213, 科目ナンバリング：LHM-EDU909J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra

- la lecture de divers types de textes
- l'audition de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

4. 学習の到達目標：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Expression orale et écrite
2. Expression orale et écrite
3. Expression orale et écrite
4. Expression orale et écrite
5. Expression orale et écrite
6. Expression orale et écrite
7. Expression orale et écrite
8. Expression orale et écrite
9. Expression orale et écrite
10. Expression orale et écrite
11. Expression orale et écrite
12. Expression orale et écrite
13. Expression orale et écrite
14. Expression orale et écrite
15. Expression orale et écrite
16. Projection de film. Analyse et discussion.

6. 成績評価方法：

Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 50%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).

7. 教科書および参考書：

Le manuel sera choisi en fonction du niveau des étudiants présents.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.

9. その他：なし

科目名：フランス語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of French Studies II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC (准教授)

講義コード：LB61210, 科目ナンバリング：LHM-EDU910J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra

- la lecture de divers types de textes
- l'audition de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

4. 学習の到達目標：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Expression orale et écrite
2. Expression orale et écrite
3. Expression orale et écrite
4. Expression orale et écrite
5. Expression orale et écrite
6. Expression orale et écrite
7. Expression orale et écrite
8. Expression orale et écrite
9. Expression orale et écrite
10. Expression orale et écrite
11. Expression orale et écrite
12. Expression orale et écrite
13. Expression orale et écrite
14. Expression orale et écrite
15. Expression orale et écrite
16. Projection de film. Analyse et discussion.

6. 成績評価方法：

Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 50%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).

7. 教科書および参考書：

Le manuel sera choisi en fonction du niveau des étudiants présents.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.

9. その他：なし

科目名：地理歴史科教育法Ⅰ／ Teaching Method of Geography and History StudiesⅠ

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：初澤 敏生（非常勤講師）

講義コード：LB64102, **科目ナンバリング：**LHM-EDU913J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の地理授業の設計と実践

2. Course Title（授業題目）：

Teaching Method of Geography Study

3. 授業の目的と概要：

高等学校地理歴史科の学習指導要領及び教科内容について理解するとともに、授業案の作成や授業の実施に関する基礎的な技能を身につけられるようにする。

4. 学習の到達目標：

高等学校地理歴史科の内容を理解するとともに、授業づくりの基礎を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 高等学校社会科・地理歴史科の概要（目標、内容等）とその変化について
 2. 高等学校地理歴史科の授業案の構成と作成上の留意点について
 3. 高等学校地理歴史科に関する実践とその分析
 4. 高等学校地理歴史科における評価法について
 5. 高等学校地理歴史科 地理Aの学習内容と指導上の留意点（1）文化と現代世界の諸課題を中心に
 6. 高等学校地理歴史科 地理Aの学習内容と指導上の留意点（2）地理学習と防災を中心に
 7. 高等学校地理歴史科 地理Bの学習内容と指導上の留意点（1）系統地理を中心に
 8. 高等学校地理歴史科 地理Bの学習内容と指導上の留意点（2）地誌を中心に
 9. 高等学校地理歴史科 地理Aの授業案づくりと情報機器及び教材の効果的な活用、評価について
 10. 高等学校地理歴史科 地理Bの授業案づくりと情報機器及び教材の効果的な活用、評価について
 11. 模擬授業（1）地理A「現代世界の諸課題」について
 12. 模擬授業（2）地理A「災害と防災」について
 13. 模擬授業（3）地理B「系統地理」について
 14. 模擬授業（4）地理B「地誌」について
 15. 模擬授業の振り返りと改善案の作成
- 6. 成績評価方法：**
模擬授業の評価（60%）、授業案の評価（20%）、授業中に課す小レポートの評価（20%）
- 7. 教科書および参考書：**
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（最新版）
- 8. 授業時間外学習：**
グループ作業で模擬授業づくりを行う。その準備は時間外学習として行う。この他、授業案作成などの課題も課す。
- 9. その他：**なし

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Geography and History Studies II

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：菊地 茂樹（非常勤講師）

講義コード：LB54102, **科目ナンバリング：**LHM-EDU914J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の歴史授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Method of History Study

3. 授業の目的と概要：

社会科教育の歴史及び教育課程の変遷を踏まえ、地理歴史科誕生の意義を明らかにするとともに、各科目の基本的な内容や特質を理解する。さらに、教材研究の仕方や学習指導案の作成など授業実践のための基礎を学ぶ。そのうえで、学習指導案を作成・検討し、グループ単位で模擬授業を行うことによって、授業構成や発問・板書など教育実習に向けた実践的な指導法や心構えを身につける。

4. 学習の到達目標：

- ①学習指導要領の変遷を踏まえた地理歴史科の目的、内容を理解する。
- ②歴史系科目の構造、内容、特質を把握する。
- ③各自の専門科目の学習指導案を作成する。
- ④模擬授業をととして授業構成力や実践力を高めるとともに、教育実習に向けての心構えを身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業に関するガイダンスと社会科の存在意義
2. 教育課程の変遷と社会科の再編成
3. 世界史A・Bの目標と内容
4. 日本史A・Bの目標と内容
5. 学習指導要領の「指導上の配慮事項」、追加項目
6. 授業と学習指導案の関係（VTR視聴）
7. 教材研究の意義と方法
8. 学習指導案の書き方
9. 学習指導案の講評（世界史A・B）
10. 学習指導案の講評（日本史A・B）
11. 模擬授業と授業評価①（演習）
12. 模擬授業と授業評価②（演習）
13. 模擬授業と授業評価③（演習）
14. 模擬授業と授業評価④（演習）
15. 新学習指導要領の要点
6. 成績評価方法：
模擬授業の評価（40%）、学習指導案の評価（30%）、小テスト（20%）、授業への参加・態度（10%）。
7. 教科書および参考書：
文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）必携のこと。
8. 授業時間外学習：
授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備を行う。
9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅰ／ Teaching Method of Religions StudiesⅠ

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB55101, 科目ナンバリング：LHM-EDU915J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論（1）

2. Course Title（授業題目）：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄（1898-1982）は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表（50%）と討論への参加状況（50%）により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)。入手方法は初回に指示します。

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Religions Studies II

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：山田 仁史 (准教授)

講義コード：LB65103, **科目ナンバリング：**LHM-EDU916J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄 (1898-1982) は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表 (50%) と討論への参加状況 (50%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし